

潮流



2013
5月号
No.231

大津島(平成25年 4月1日現在)
人口 363人(男156人 女207人)
高齢化率 71.1%

体験交流施設

大津島 海の郷 オープン



施設案内
 □所在地：大津島 217-1 (旧大津島中学校跡地) □開館時間：8:30~22:00 □休館日：月曜日・年末年始
 □料金：1泊1,470円(シーツ、入浴込み) ※島内団体が宿泊しない場合は無料(冷暖房料除く)です。
 □利用申込み・問合せ先：0834-85-2560 (大津島海の郷)

四月十日、長年、地域に親しまれてきた「旧大津島中学校」の跡地に「体験交流施設 海の郷」がオープンしました。この海の郷では、自然や歴史文化など島のかげがえのない財産を生かし、学校や企業等の宿泊研修、体験活動を受け入れます。また、地域の新たな交流施設として住民の皆様の利用もお待ちしております。

○ご利用案内く地域の皆様へ
 ▼ご利用案内く地域の皆様へ
 ○誰でも利用できますか
 島内団体が宿泊しないで利用する場合は、無料です。
 ※宿泊は有料・要件有り。
 ○何に利用できますか
 各種会合や行事など地域・団体の活動に利用ください。ただし、調理室はありませんので大津島公民館を利用ください。

○利用の手続きは
 海の郷に直接、電話でお申し込み下さい。
 ○食堂・風呂は利用できますか
 基本的に宿泊・研修利用者に限られます。なお、食堂はJA周南が運営されます。行事等で、食事が必要な場合には、ご相談下さい。

大津島海の郷開所記念式典



四月九日「大津島海の郷開所記念式典」が行われました。木村市長を始め、多くの来賓の方々、複数のメディアも来島しました。

式典では、大津島長持唄保存会による「長持唄」も披露され、テレビカメラにも物怖じせず、保存会の皆さんの見事な唄と舞でした。当日は、餅まきも行われ、地域の歓迎を受けました。

長持唄の「祝いこめく祝いこめく」の掛け声は、大津島に新しく完成した地域活性化の拠点の門出を、祝うと共に、今後の活躍に期待したエールのようでした。

島母さんのお料理教室



ささみのパン粉焼き

～疲労回復効果にも…ビタミンも豊富～

<材料> 2人前
 ささ身 120g パセリ 少々 フロッコリー 60g
 塩 少々 トマト 60g レモン輪切り 2枚
 コショウ 少々 パン粉 大さじ3
 にんにく 適量 粒マスタード 適量

<作り方>
 ①ささ身に塩、コショウをふり、粒マスタードを薄く塗っておく。
 ②トマトは種を取って5mm角に、にんにく、パセリはみじん切りにする。
 ③パン粉ににんにく、パセリを混ぜておく。
 ④天板にオーフンシートを敷き、①を並べ、トマト、③の順にかさねる。
 200度のオーフンで焼き色がつくまで焼き、ホイルをかぶせて中まで火が通ったら火を止める。
 ⑤④を食べやすい大きさに切り、皿に盛り、茹でたフロッコリー、輪切りにしたレモンを添える。

きく科の多年性植物で、春に、清楚で可憐な紫色の花を咲かせます。風薫る皐月の庭を和ませてくれます。



都忘れ

金太郎も鯉も力強い男の子を象徴しています。元気で浚刺とした若者に、成長します様にと祈ります。



金太郎と鯉



海 の街道・五 【壇ノ浦合戦】



文=末兼 正純

西暦一一八五年三月二四日(旧暦)、朝から始まった壇ノ浦の戦いは夕刻に決着し、平家は滅亡した。参戦した兵船の数を、平家物語は源氏三千余艘と平家千余艘とし、吾妻鏡では八百と五百と記している。関東平野の騎馬軍団から興った源氏は、自前の水軍を持たない。源氏の水軍は、味方につけた紀伊の熊野水軍や伊予の河野水軍などの混成軍であった。彼等が集結した場所は定かでない歴史の謎である。吾妻鏡によると、義経は三月二日に陸路平家を追討してきた頼朝の軍と「大島の津」で合流した。この時大内氏は義経に多数の船を提供している。源氏勢の各地の水軍もここに集まって来たのではあるまいか。

しかし、「大島の津」は特定されて居らず、周防大島・柳井市沖・周南市南部などの説がある。

平家物語には、源氏の水軍は「追津」に集合したとある。解説は「追津」を長府沖の満珠島というが、蛙島ほどの小島で、混成大水軍の集結には無理がある。

「大島の津」「追津」：大津島を連想させる。大津島から壇ノ浦は約八〇キロである。二二日に集結して二四日朝までに到着するのはほどよい距離であろう。以上から、源氏の水軍が集結したのは大津島の沖であったのではないかと私は考えている。

逆に、これが大津島という名の由縁かも知れない。

心のふるさとの島



文＝戸倉 充博
(JA 周南 大津島店)

「〇〇ネエ（姉さん？大津島では、親しい年上の女性を、名前にネエを付けて呼びます）家に居らんけど、どこに行ったか知らんか？」

「大阪の娘のところに行く言いよった。」

大津島では、そんな会話をよく聞きます。

テレビなどで「隣近所のお付き合いを大切にしましょう。」「一人暮らしの高齢者を訪問し、声を掛けましょう。」と言っています。しかし、大津島では当たり前です。

徳山港の海は、濁っていますが大津島の海は、奇麗に澄んでいます。大津島には、人々との絆だけでなく、私たちが失ったものがたくさん残っています。私は、そんな大津島が好きです。

知っちょるかね

へびの



文＝松本 千恵子

今年、巳年なので、蛇の小山が何日もあったん話。

「蛇が鳴く」つちゅうのを、聞いた事があるじゃろうか？戦時中、海軍工廠（こうしょう）がこの島にあった頃、一人の兵隊が、おもしろ半分に一匹の蛇を殴り殺したんと。その時、蛇が「ヒュッ」とも「シューッ」とも聞こえる声を出したんて。そうしたら、四方八方から蛇が沸き出て、その兵隊の方へ向かってきたんと。兵隊も怯まずに蛇を殺しよったけど、あまりの数に、他の兵隊に助けを求めて、四、五人掛りで殺したけど、「二百匹までは数えたが、後はそれどころじゃなかった。」と。さしもの兵隊も顔色を失うちよったそ

うなのよ。蛇の死んだのは浜に穴を掘って埋めようとしたけど、埋め切れず、浜に蛇

4月13日、刈尾の浜に、今年もたくさんの鯉が舞い上がりました。昨年、有志のメンバーで「島を賑やかさせよう！」と設置した鯉のぼりですが、今年は、島を離れている出身者たちも声を掛け合って、手伝いに帰省してくださいました。

若い方々の力も借りて、13本の鯉のぼりが上がっています。出身者の方々からは「次に行事がある時は、また声をかけてほしい」など島の将来を担う頼もしい言葉もあり、皆で協力して上げた鯉たちは、まるで島の未来のように雄大に泳いでいます。

島を離れていても故郷を応援したいという気持ちと、島に住んでいる方々、双方が協力し合って、より素晴らしいものがこれからも形作れると思います。

過ごしやすい気候になる5月、ぜひ海に舞う鯉のぼりを見にいらしてください。

刈尾港周辺 5月下旬頃まで

刈尾に泳ぐ島の未来



文＝河田 彩

大津島出身者たちによる意見交換会を開催します！

この度、大津島を故郷に持つ出身者の方からご提案があり、昨年度に引き続き2度目となる意見交換会を開催することになりました。

ゴールデンウィークの帰省時期に合わせ5月5日（日）本浦の「大津島海の郷」にて10時から行われます。

「離れていてもふるさと大津島を応援したい」という出身者の方々の想いを形づくれる話し合いができるよう、島おこし隊もサポートしていきます。

問い合わせ先
大津島地区コミュニティ推進協議会 事務局（大津島支所 0834-85-2001）



昨年12月の出身者意見交換会の様子

大津島最新情報 更新中！！

ttp://i-8996-ozsima.jugem.jp/



DE すがね編集委員会×潮流編集委員会 交流会

3月24日（日）「DE すがね編集委員会×潮流編集委員会 交流会」が大津島で行われました。須金からは13名の方が来島し、大津島探索ツアーや、意見交換会、交流会を行いました。

意見交換会では、「年内を目標に特集合併号を出そう」など、新しい企画が生まれました。

詳細は、合併号でお知らせします。乞うご期待！

潮流編集委員会 一同

「刈尾海水浴場の監視人募集」のお知らせ

内容：刈尾海水浴場の監視人を募集します。
期間：平成25年7月20日～8月15日
時間：午前9：00～午後5：00
※ご希望の方は、大津島支所（85-2001）まで、お問い合わせ下さい。

4月6日に開催を予定していましたが、荒天により、中止となりました。準備にご協力くださった皆様、ありがとうございました。
大津島地区コミュニティ事務局

編集後記

最近、「本浦垣の内農園」の活動で、小麦の世話や、草刈りに、忙しい日々を送っています。

先日、義守さんに呼ばれて、三ツ鉞片手に畑へ上がると、義守さん夫妻と雅之さんが、作業をしていました。私も作業を始め、半畝済んだところで、義守さんの「休もうや」の号令で小休憩。笑いに花を咲かせていると「来た方がいいが、アンタが来ると、話してしまうから、呼ばん方がはかどつたわ」と雅之さん。皆で大笑いし、作業再開。一人だと大変な作業でも、皆で集まると楽しい時間になります。集う事は、とても大切だと実感します。

これからの季節、天気の良い日は、今まで以上に皆で、集ってみては、如何でしょうか。どんな話でも良いと思います。ですが、是非その時は、「今月の潮流読んだ？」など、話題に上げてもらえる、とても嬉しく思います。

大友 翔太

ひろしのつぶやき



「もやいの井戸」

文＝屋野 廣志

※3月23日に、本浦地区上下水道統合竣工式が行われました。

大津島の本浦に上水が来た。これで島全体に浄化した本土からの水利を頂く事になった。喜ぶべきか？

昭和五十五年頃、大津島は本浦地区を残し、本土から給水を受ける事になった。それから本浦だけ、自産の湧水を活かし、簡易水道を四十五年間使

り続けた誇れる地区である。平成十一年九月二十四日早朝に、大津島を襲った台風十八号では、高波、高汐で道路、水道、電気全てを失った。時を助けたのは、本浦の簡易水道だった。

現在も本浦には、複数の井戸が残っており、横穴より湧き出る年中途切れる事のない水を、屋内に引き